

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究面】	
① 令和2年度においては、特に、競争戦略における「スタック・イン・ザ・ミドル」とブルー・オーシャン戦略における「バリュー・イノベーション」の関係について考察した。「スタック・イン・ザ・ミドル」とは、M.E.ポーターが最初に主張した見解であるが、競争戦略の両極をなす「コスト・リーダーシップ (CL)」と「差別化」を同時追求するとどっちつかずとなり、中途半端な状況に陥ってしまう、つまり、CLと差別化はトレードオフの関係にあるとする考え方である。それに対し、「バリュー・イノベーション」とは、顧客に提供する一連の価値の中で、減らせるものは減らす、取り除けるものは取り除く、一方、増やすべきものは増やす、付け加えるべきものは付け加えることにより、コストを大幅に低下させつつ (CL)、価値を高める (差別化) というものである。つまり、ブルー・オーシャン戦略における「バリュー・イノベーション」においては、CLと差別化の同時追求は可能であるとする立場をとる。令和2年度は、互いの見解の背景や論拠を検討し、両者は本当に矛盾することを主張しているのか等について検討した。	
② 令和元年度に引き続き、「わが国におけるこれまでのベンチャービジネス・ブーム」に関わる研究を行った。令和元年度は、各ブーム期における時代背景、政府の支援環境、主な動向や成果、リーディング産業等について検討し、それらを一覧表としてまとめたが、内容的に不十分な点があった。そこで、令和2年度は、各項目について再検討を行い、表の内容をブラッシュアップさせた。	
【教育面】	
① 学部講義	
令和2年度は、講義全体が遠隔であった。したがって、ZOOMで画像や音声を収録し、それをTeamsにアップし、学生に受講してもらうというかたちをとったが、初めてのことであり大変苦労した。特に、学生にとってわかりやすい資料の作成や画像等の収録という点で悩むところもあった。ただし、最初はどの程度理解してもらえるのか不安だったが、期末に課したレポートを読むと、その多くが講義の内容をしっかりと踏まえたものであり、遠隔講義の成果は相応にあったと考えている。	
② 学部ゼミ	
・2年次：経営学の大枠をしっかりと把握できるように基礎を徹底して教授した。	
・3年次：実存企業の事例を多用することにより、経営戦略に関わる理論習得を容易にした。	
・4年次：卒業論文の中間報告において適切なアドバイスをすることにより、論文の完成度を高めた。	
2 その他の事項	
【学内での活動】	
キャリア支援センター長を務めた。	
【学外での活動】	
①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会 (特級)」において、「経営戦略論」の講義を行った。	
②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略 (基礎理論)」および「イノベーション (基礎理論)」というテーマで講義した。	

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、今年度の検討結果をベースとして、競争戦略における「スタック・イン・ザ・ミドル」とブルー・オーシャン戦略における「バリュー・イノベーション」の関係について研究を深化させたい。

教育面では、学部講義において遠隔授業を必要とする学生がおり、初めての講義形態となる。遠隔で講義を受ける学生、対面で講義を受ける学生双方にとって理解し易い講義になるよう努めたい。

その他については、今年度も、JA 栃木中央会および JA 群馬中央会から「経営戦略」に関わる講義を依頼されているのでしっかり対応したいと思う。